



T-time

帝塚山学園広報誌

Vol. **19**
2024/Dec.
令和6年12月16日発行

帝塚山大学・帝塚山高等学校・帝塚山中学校・帝塚山小学校・帝塚山幼稚園



60 Years of Tezukayama University



T-time

帝塚山学園広報誌

2024/Dec.

令和6年12月16日発行 Vol.19



〈表紙の写真〉

学園前キャンパス(写真上)と東生駒キャンパスの両キャンパスで、学生の皆さんにご協力いただき、写真撮影を行いました。「開学60周年を迎えた歴史ある大学で、先輩たちに負けないよう、誇れる帝塚山生として頑張りたいです!」と、学生たちからは力強い意気込みの言葉が寄せられました。

Contents

特集 帝塚山大学開学60周年	P 02
大学	P 07
奈良県初! 絵本の魅力を伝える「認定絵本士」誕生	
TOPICS	
・ UR都市機構との連携で地域交流イベントを実施	
・ 本学学生考案の「栗ご飯と彩り野菜弁当」が大好評!	
・ 大和郡山フェアで試食会開催	
・ 王寺町と包括的連携協定を締結	
中学校・高等学校	P 09
英語漬けの5日間、生徒たちが挑む「帝塚山エンパワープログラム」	
TOPICS	
・ 2年連続! 関西教育ICT展に奈良県代表として参加!	
・ 高校生ICT Conference 2024 in 奈良 開催	
・ 本校生徒が3年ぶりに奈良県代表に!	
・ 田んぼプロジェクト -稲刈り-	
・ Instagram公式アカウントを開設しました	
小学校	P 11
英語で学ぶ楽しさを実感! 国内で留学体験	
TOPICS	
・ 日本の財政を自分ごととして考える体験型授業を実施	
・ 野菜栽培委員の育てた野菜が給食に!	
・ 『TEZ'fes 2024』盛大に開催!	
幼稚園	P 13
夏の思い出「てづキッズまつり」開催!	
TOPICS	
・ お泊まり保育 ~楽しい体験と成長の2日間~	
・ 秋空の下で稲刈り体験! 園児たちが自然と触れ合う一日	
・ 肩たたきや歌でふれあい交流 園児たちが介護施設を訪問	
・ Instagram公式アカウントを開設しました	
活躍する帝塚山生	P 15
教育連携	P 17
つながる ひろがる 教育連携	
・ 同窓会だより	P 21
・ INFORMATION	P 22

UD FONT

帝塚山大学 開学60周年

Since 1964 60th Anniversary



10月5日、学園講堂にて、帝塚山大学開学60周年記念式典が挙行されました。大学や高等学校の関係者をはじめ、奈良県内の自治体首長や企業、団体など約200名がご列席され、厳かな雰囲気の中で記念式典のほか、講演会や演奏会が行われました。



式典では、富岡将人理事長・学園長が帝塚山学園創立から23年後に大学が開学した歴史に触れ、「実学の帝塚山大学として、学生が時代を生き抜く力、変化に対応できる力を養うことを目的とした教育を進めている」と述べました。データサイエンスの基礎を学べる全学的な科目展開など、教育の具体例も紹介し、「少子化による大学経営の厳しさが増す中でも、実学という特色を生かし、あらゆる施策を講じていく」と今後の方針を示しました。

続いて、奥村由美子学長は「60年という還暦を機に、大学としての原点に立ち返り、本学ならではの新たな可能性を追求し、より良い帝塚山大学としての歩みを進めていきたい」と述べました。また、実学の具体的な事例として、各学科が地域と連携して展開している取り組みを紹介し、「学生たちが本物に触れることで専門的で実践的な知識を得、実社会の課題解決に取り組み、時代の変化に対応できる力を身に付けさせるため、引き続き支援していく」との決意を表明しました。

来賓の西村高則奈良県副知事と真銅正宣奈良市副市長は、それぞれ山下真知事と仲川げん市長の祝辞を代読され、本学との連携を通じての地域発展への貢献に期待を述べられました。

式典の後には、奈良県出身のお笑いコンビ「笑い飯」の哲夫さんによる記念講演が行われました。「人を育てる」ことをテーマとして、奈良や仏教の歴史に関する豊富な知識とユーモアをまじえた内容に、会場は笑い声に包まれ、終始和やかな雰囲気で行われました。

式典の締めくくりとして、奈良フィルハーモニー管弦楽団による演奏が行われました。ハイドンの「皇帝」による優美で荘厳な旋律が会場を魅了し、アンコールではモーツァルトの弦楽四重奏曲が披露され、式典に華を添えました。

- 2012 経営情報学部 経営情報学科を経営学部 経営学科に名称変更
- 大学院 人文科学研究科 臨床社会心理学専攻(修士課程)を大学院 心理科学研究科 心理科学専攻(博士前期課程・博士後期課程)に改組

- 2013 五條市と連携協定を締結
- 奈良県中小企業家同友会と産学地域連携基本協定を締結

- 2014 帝塚山大学創立50周年



創立50周年記念式典での展示



帝塚山大学創立50周年

- 人文学部を文学部に名称変更
- 文学部 文化創造学科 設置
- 2015 河合町と地方創生の包括的連携協力協定を締結
- 東生駒キャンパスに「TEZUKAYAMA FOREST CAFE」オープン
- 女子大時代の“三確寮”を改装し、セミナーハウス「三確」が誕生



TEZUKAYAMA FOREST CAFE



セミナーハウス「三確」

- 2016 東生駒キャンパスにラーニング・コモンズが完成



ラーニング・コモンズ

- 2017 明日香村と連携協定を締結
- 生駒商工会議所と連携協定を締結
- 奈良西警察署と警察使用不能時における施設使用に関する協定を締結
- (株)日本政策金融公庫と産学連携の協力推進覚書を締結

- 「『帝塚山プラットフォーム』の構築による学際的『奈良学』研究の推進」が文部科学省「平成29年度私立大学研究ブランディング事業」に採択



- 2018 経済学部 経済学科・経営学部 経営学科を経済経営学部 経済経営学科に改組

- 2019 現代生活学部 こども学科を教育学部 こども教育学科に改組

- 2020 帝塚山大学子育て支援センター 設置(学部附置から大学附置に組織変更)

- SBIリクイディティ・マーケット(株)、SBIFXトレード(株)と金融リテラシー教育の推進に関する連携協定を締結
- 奈良市観光協会と連携協定を締結
- (独)都市再生機構(UR都市機構)西日本支社と連携協定を締結
- 三郷町と地域経済の振興発展に向けて包括連携協定を締結

- 2021 大阪電気通信大学と学術交流に関する包括連携協定を締結



協定式

- 2022 帝塚山幼稚園とキンダーカウンセラー事業に関する連携協定を締結



キンダーカウンセラー事業

- 2023 山添村と連携協定を締結

- 2024 帝塚山大学開学60周年
- 王寺町と包括的連携協定を締結

帝塚山大学開学60周年記念サイト開設のお知らせ

この度、本学の記念すべき節目を祝い、記念サイトを開設いたしました。記念サイトでは、これまでの歴史を振り返るとともに、今後の大学の発展に向けた取り組みや記念行事の詳細などをお知らせしています。

今後開催予定の記念行事についても、随時更新してまいります。本学に関わりのあるすべての皆さまにご覧いただき、本学のこれからを共に応援いただければ幸いです。

<https://www.tezukayama-u.ac.jp/60th/>

記念サイトへのアクセスはこちらから→



帝塚山大学60年の歩み

帝塚山大学は、1941年に設立された帝塚山学園を母体とし、1964年に全国で初めて教養学部を有した4年制の女子大学として開学しました。現在では、6学部7学科大学院2研究科を擁する奈良県最大規模の文系総合大学となっています。

近年は、「実学の帝塚山大学」をスローガンに掲げ、専門的な知識を基盤としたプロジェクト型学習やフィールドワークを積極的に展開しています。学生たちは、これらの学びを通じて実際の体験や本物に触れる機会を得ることで、実社会における多様な機能や価値観、さらには世代間のつながりについて学びながら、物事を多角的にとらえる力を養い、主体的に行動し、他者と協働する能力を育てています。

また、各学部・学科では、それぞれの特色を活かした教育活動を展開し、地域社会との連携や国際的な視野を育む教育を通じて、社会に貢献できる人材の育成に努めているところです。

- 1964 ○ 帝塚山大学 開学
(教養学部 教養学科の女子単科大学)



大学入学式

- 1987 ○ 経済学部 経済学科 設置
(全学男女共学化)



男女共学化後初の入学式

- 1991 ○ 初の大学院誕生
○ 大学院 経済学研究科 経済学専攻(修士課程) 設置

- 1992 ○ 帝塚山大学経済経営研究所 設置

- 1993 ○ 経済学部 経営情報学科 設置
○ 大学院 経済学研究科 経済学専攻(博士後期課程) 設置

- 1996 ○ 大学院 人文科学研究科 日本伝統文化専攻(修士課程) 設置

- 1997 ○ 帝塚山考古学研究所を帝塚山大学考古学研究所に組織変更



考古学研究所



大学通信帝塚山 vol.1

- 法政策学部 法政策学科 設置
- 大学通信帝塚山 vol.1 発行

- 1998 ○ 経済学部 経営情報学科を経営情報学部 経営情報学科に改組
○ 大学院 人文科学研究科 日本伝統文化専攻(博士後期課程) 設置

- 1999 ○ 教養学部を人文科学部に改組
○ 人文科学部 日本文化学科・英語文化学科・人間文化学科 設置

- 2000 ○ 帝塚山短期大学を帝塚山大学 短期大学部に組織変更
○ 帝塚山学園人間環境科学研究所を帝塚山大学人間環境科学研究所に組織変更

- 2001 ○ 大学院 法政策研究科 世界経済法制専攻(修士課程) 設置

- 2003 ○ 大学院 法政策研究科 世界経済法制専攻(博士後期課程) 設置

- 2004 ○ 帝塚山大学開学40周年
○ 人文科学部 人間文化学科および短期大学部を改組し、心理福祉学部 心理学科・地域福祉学科および現代生活学部 食物栄養学科・居住空間デザイン学科を設置

- 帝塚山大学附属博物館 設置



- 2005 ○ 帝塚山大学
こころのケアセンター 設置

- 2006 ○ 法政策学部 法政策学科を法政策学部 ビジネス法学科・公共政策学科に改組
○ 現代生活学部 食物栄養学科に管理栄養士養成課程を開設
○ 大学院 人文科学研究科 臨床社会心理学専攻(修士課程) 設置
○ 帝塚山学園芸術文化研究所を帝塚山大学奈良学総合文化研究所に組織変更

- 2008 ○ 大学ファミリークラブ 設立

- 2009 ○ 現代生活学部 こども学科 設置
○ 学園前キャンパスに18号館誕生
○ 人文科学部を人文学部に名称変更



18号館

- 2010 ○ 法政策学部 ビジネス法学科・公共政策学科を法学部 法学科に改組
○ 多摩大学と学术交流協定を締結

- 2011 ○ 心理福祉学部 心理学科・地域福祉学科を心理学部・心理学科に改組
○ 奈良市と包括的連携協定を締結
○ 生駒市、生駒市観光協会、生駒商工会議所と連携協定を締結
○ 香芝市と連携協定を締結

各学部・学科でも帝塚山大学開学60周年記念事業を実施

大学の開学60周年を記念し、各学部・学科が主催する特別講座など多様な事業を実施しています。地域社会や企業との連携も強化され、学びの場が広がる中で、在学生や卒業生だけでなく、地域の方々も参加されています。これらの活動を通じて、学びの原点を再確認し、本学の今後の更なる発展を目指します。各学部・学科でこれまでに実施された事業の一部を下で紹介します。

文学部

當麻寺プロジェクト



當麻寺(葛城市)の文化財保存・活用をめぐる分野横断型の教育研究活動として、「當麻寺プロジェクト」を実施しています。このプロジェクトは、国の重要無形民俗文化財に指定された當麻寺の魅力を様々な方法で発信していくことを目的として始めました。これまで、プロジェクトの一環として、伝統行事「聖衆来迎練供養会式」のポスターや大阪電気通信大学との連携による中将姫の「お身代わり像」の制作などを実施してきました。

※写真は学生が制作したポスター

経済経営学部

公開講座「経営者と学生が起こす化学反応～学ぶ・繋ぐ・生み出す～」



9月21日、大学開学60周年を記念し、「経営者と学生が起こす化学反応～学ぶ・繋ぐ・生み出す～」をテーマに公開講座を開催しました。この講座では、学生によるアクティブラーニングを通じた課題解決の事例発表に加え、経営者や教員とのディスカッションも行われました。

法学部

警察実務講座100回記念特別講座



6月21日、警察功労で受勲された松岡幸司大学客員教授により、大学60周年記念行事の一環として、記念特別講座が行われました。第一部は警察官を志望する学生に対して「警察官人生を語る」というテーマで最終講義をされました。第二部は先生を囲み、現役警察官である卒業生も交えた座談会で大いに盛り上がりしました。

心理学部

日本応用心理学会第90回大会特別企画「帝塚山大学開学60周年記念イベント開催」



9月24日、日本応用心理学会との共催で、開学60周年記念イベントを開催しました。第1部では蓮花一己大学名誉教授が「交通心理学における地域でのフィールド研究の実践」についてご講演。第2部では文学部河口充勇教授の進行のもと、株式会社登酒店の登和哉様をお招きし、「奈良酒を知る／伝える」をテーマに話題を提供いただきました。いずれも本学の地域への展開をご報告いただく内容で、貴重な会となりました。

現代生活学部 食物栄養学科

食物栄養学科の過去・現在・未来をつなぐ



6月15日、学科イベント「食物栄養学科の過去・現在・未来をつなぐ」を開催し、卒業生や在学生106名が参加しました。第1部では、卒業生4名が国家試験対策についての経験を伝え、活発な質疑応答がありました。第2部では、様々な立場で管理栄養士として働く卒業生が仕事の内容や、具体的なキャリア像について伝えました。第3部では、診療報酬改定に関する講演や情報交換会が行われ、在学生・卒業生の交流の場として大変有意義な機会となりました。

現代生活学部 居住空間デザイン学科

建築クイズ王決定戦2024



9月10日、学科の全学年参加イベント「建築クイズ王決定戦2024」を大学開学60周年記念のイベントとして開催しました。建築士試験の問題をクイズにし、楽しく学びながら、学生同士の交流を図る機会を設けるための試みとして、1年生から4年生までの学年混合チームを結成し、○×問題に挑みました。

教育学部

第1回てづかのこどもフェス



10月26日、「第1回てづかのこどもフェス」を開催し、307名の親子が参加しました。50名の教育学部生が中心となってフェスを企画・運営しました。午前の部では、県内初の認定給本土となった学生による絵本の読み聞かせや工作イベントなど多彩なプログラムが実施され、午後の部では作家たかいよしかず先生のおはなし会とワークショップが行われました。

帝塚山大学開学60周年記念募金へのご協力のご案内

—未来を担う学生たちの快適な居場所作りのために

本学がこの節目を迎えることができたのは、地域の皆さまや卒業生、在校生、父母等の皆さまをはじめ、多くの関係者のご支援のおかげです。今後さらに教育・研究環境の充実を図り、次世代のリーダーとなる学生を育成するため、「学生生活を快適に過ごすための居場所作り」を記念事業の柱とし、学び舎の環境整備を進めてまいります。これに伴い、本学では60周年を記念して募金活動を行っております。

皆さまからのご寄付は、少人数でくつろげるスペースの整備、会話やコミュニケーションを楽しむ場の設置、構内設備の快適性向上・美装化、省エネタイプの設備の整備などに充当させていただきます。

60周年を共に祝い、未来の帝塚山大学を支えていただける皆さまのご支援を心よりお願い申し上げます。



写真はイメージ図です

開学60周年記念募金のお願いについて

詳細はこちら▶

https://www.tezukayama-u.ac.jp/application/themes/basic/img/60th/60th_pamphlet.pdf

〈お問い合わせ〉 総務課 東生駒キャンパス TEL:0742-48-9122 FAX:0742-48-9135



大学開学60周年を記念して 歴代学長の肖像と過去の大学広報誌「大学通信帝塚山」を展示中

開学60周年を記念し、学園前キャンパス16号館2階展示コーナーにて特別展示を開催中です。本展示では、歴代学長16名の肖像と学長就任を報じる当時の「帝塚山学園新聞」を紹介し、大学発展の軌跡を振り返ることができます。また、これまでに刊行された「大学通信帝塚山」全55号も展示ケースに収められ、時代ごとの特色や本学の進化を俯瞰できる内容となっています。



大学開学60周年記念 植樹式を開催

このたび大学同窓会より泰山木の記念樹贈呈があり、11月8日に東生駒キャンパスにて植樹式が執り行われました。式は、小川育子大学同窓会長と奥村由美子学長の挨拶により幕を開けました。その後、小川会長と奥村学長がじょうろを手に取り、泰山木へ水を注ぎ、その成長を願いました。さらに、尾島美優さん(教育学部3年)による銘板の除幕も行われました。この銘板には、尾島さんが揮毫した「泰山木」の文字が刻まれています。泰山木は、新たな未来へ向けて、大学と次の世代が共に成長していく希望を象徴するものとなるでしょう。



開学60周年 シンボルマーク デザイン

2023年、「開学60周年記念シンボルマーク」のデザインを在学生から募集しました。多数の応募の中から選考を経て、高瀬将生さん(現代生活学部居住空間デザイン学科2年)のデザインが「グランプリ」に選ばれました。選ばれたシンボルマークは、2025年3月31日まで大学の広報物やホームページなどに掲載され、開学60周年を学内外に広くアピールするために活用されます。



帝塚山大学はつながり続けます

帝塚山大学は、開学60周年を迎えました。

1964年、初めての東京オリンピックが開催された年に、帝塚山大学は日本初の教養学部を擁する女子大学として開学しました。1987年には経済学部の発足と男女共学化を遂げ、その後大学院の設置等を経て、6学部7学科2研究科を擁する奈良県最大規模の文系総合大学に発展しました。豊かな歴史文化資源に恵まれた奈良の地で、本学が長く歴史を積み重ねてこられたのは、皆さまからの多大なご理解、ご支援の賜物でございます。心より御礼申し上げます。

本学では、開学50周年に「実学の帝塚山大学」をスローガンとして掲げました。そこには、開学当時から重視された「真の教養を備える」という理念が脈々と引き継がれており、現在も、学生を専門的かつ総合的で、実践的な「知」に導くことを大切にしています。そして、学生が他者とのより良い関係を築きながら、それぞれの学科の専門的観点から社会における課題へ主体的に、柔軟に向き合い、その解決に取り組めることを目指した教育を続けています。

本学の強みは、何といても教職員の温かい連携による「面倒見の良さ」です。同窓生や自治体、企業、地域の皆さまのお力をいただきながら、あらゆる角度からそれぞれの学生に応じた支援に取り組んでいます。これから長い時を経ても、それぞれの学生が、帝塚山大学で学び、育ったことに誇りを持ち、いくつになっても立ち戻れる場所となるような、「つながり」を大切にしながら大学づくりに誠実に努めてまいります。

今後とも帝塚山大学をお見守りくださいますよう、よろしく申し上げます。

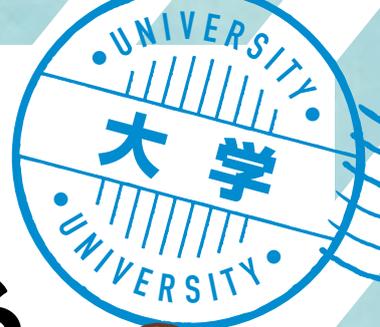


奥村 由美子 学長

関西学院大学大学院文学研究博士課程前期課程修了
筑波大学大学院人間総合科学研究科博士課程修了
博士(医学) 専門は老年心理学、臨床心理学。

2012年4月 帝塚山大学心理学部教授
2016年4月 帝塚山大学心理学部長
2021年4月 帝塚山大学副学長
2023年4月 帝塚山大学学長就任

日本心理臨床学会、日本老年社会科学会、日本認知症学会、日本認知症ケア学会、日本心理学会、日本健康心理学会、日本老年精神医学会、日本応用心理学会、日本老年臨床心理学会等に所属。



奈良県初!

絵本の魅力を伝える 「認定絵本土」誕生



※群読：集団で詩や物語を読むこと

も絵本を通じた教育と文化の発展に貢献していくことが期待されます。

広めていく意欲を示しました。今後保育園や図書館での読み聞かせ活動を通じて、地域社会に絵本の魅力を

した。学生たちは、この資格を活かし

居の披露及び絵本の群読[※]が行われま

語り、その後、パネルシアターや紙芝

が学びの過程や今後の目標について

授与式では、学生代表

ました。

あたり

指導に

教授らが

徳永加代

育学部

士の教

である絵本専門

は、さらに上級資格

ものです。養成講座で

と技術を持つことを証明する

修了し、絵本に関する深い知識

たガイドラインに基づく養成講座を

は、国立青少年教育振興機構が定め

資格取得者となりました。この資格

認定証が授与され、県内大学で初の

学部こども教育学科の4年生40名に

「認定絵本土」として認定された教育

式が開催されました。この式では、



学生たちが作製したオリジナルの紙芝居の披露



皆さん、「認定絵本土」の認定
おめでとうございます。



紙芝居の披露



群読の様子



認定証は杉村智子教育学部長より授与



UR都市機構との連携で地域交流イベントを実施

UR都市機構が主催する「DANCHI つながる一む ～夏休みは団地で楽しもう!～」交流イベントが、奈良学園前・鶴舞団地で開催され、本学法学部及び現代生活学部食物栄養学科、居住空間デザイン学科の学生が参加しました。本学とUR都市機構は、地域社会の活性化と学生の学びの場を提供することを目的に協定を結んでおり、今回のイベントはその連携の一環として実施されました。

法学部の学生は、奈良西警察署の協力を得て、「警察って何してるの?」をテーマに、子どもたち向けに交通安全教室をクイズ形式で開催しました。食物栄養学科の学生は、「暑さ対策を学ぼう」を



答えがわかる人?

テーマに、熱中症対策で役立つ「熱中症ハザードマップ作り」や、「日傘の効果体験」など、自由研究にもなるイベントを通して、子どもたちに暑さ対策の必要性を伝えました。さらに、居住空間デザイン学科の学生は、「『うちわ』や『扇子』を作ろう!」をテーマに、マーブリング(墨流し)という技法で、無地のうちわや扇子に絵の具の模様を写し取りオリジナル作品を作る体験を実施しました。



▲日傘の効果を感じ!



▲マーブリング体験の様子



それぞれの専門分野を活かした活動を通して、学生たちは地域の子どもたちや住民との交流を深めることができました。この取り組みは、協定の目的どおり地域貢献だけでなく、学生の今後の学びにも大きく寄与するものとなりました。



本学学生考案の「栗ご飯と彩り野菜弁当」が大好評! 大和郡山フェアで試食会開催

奈良県内の4大学(帝塚山大学、奈良女子大学、近畿大学、畿央大学)の管理栄養士養成課程の学生で構成された食育ボランティアサークル「ヘルスチーム菜良」が、奈良県及びイオンリテール株式会社近畿カンパニー食品部と協働して「野菜のとれるお弁当」を開発しました。各大学が考案した4種類の弁当は、10月16日から10月29日の間、近畿地区のイオン及びイオンスタイル85店舗で販売されました。

本学現代生活学部食物栄養学科の学生が考案したのは「栗ご飯と彩り野菜弁当」。ナスやかぼちゃなどの野菜が1食で120g以上

摂取でき、旬の鯖や栗を使った8種類のおかずとご飯で秋の味覚が楽しめます。

10月19日に、イオン大和郡山店で開催された「大和郡山フェア」では、学生による試食販売イベントが行われました。本学の弁当は大好評で当日用意した試食はすべて配布され、当日販売分の弁当も完売しました。試食者からは「おいしい」「野菜が多く摂れてありがたい」との感想が寄せられました。



王寺町と包括的連携協定を締結

本学と王寺町は、子育て支援、教育及び研究活動の促進など多様な分野において相互に協力し、地域社会の持続的な発展と人材育成に寄与することを目的として、包括的連携協定を締結しました。今後、本協定により相互の人的・物的資源の交流・活用を図り、多様な分野において協力しながら事業を展開してまいります。

【連携及び協力する事項】

- ① 子育て支援に関すること
- ② 教育及び研究活動の促進に関すること
- ③ 地域活性化、観光振興に関すること
- ④ 歴史、文化芸術に関すること
- ⑤ 人材育成に関すること など



▲左より 王寺町公式マスコットキャラクター「雪丸」、平井康之王寺町長、奥村由美子学長



英語漬けの5日間、生徒たちが挑む 「帝塚山エンパワープログラム」

高校1年生を対象とした校内留学体験プログラム「帝塚山エンパワープログラム」を実施しました。このプログラムは、英語でのコミュニケーションに自信がない生徒でも、5日間の英語漬けの環境で学び、最終的には自らの意見や思いを英語で発表できるようにすることを目的としています。

今回のプログラムには43人の生徒が参加し、8つのグループに分かれて活動しました。それぞれのグループには日本人国内で留学中の外国人留学生がリーダーとして加わり、日ごとにリーダーが入れ替わる形で進行されました。多様な背景や視点を持つリーダーたちとの交流は、生徒たちにとって大きな刺激となりました。

プログラムには、社会的アイデンティティや価値観についてのディスカッション、偏見や先入観に関するワークショップ、自分のスキルや強みに目を向けるアクティビティ、プレゼンテーションなど、多彩な内容が盛り込まれ、生徒たちは熱心に取り組んでいました。

プログラムの終盤には、今まで学んだことを振り返り、今後どのように活かしていくかを英語で発表する最終プレゼンテーションに挑戦。発表後にはリーダーや講師からフィードバックを受け、自身の成長を実



皆でプレゼンテーションの内容をまとめます

感じているようでした。参加者の箕浦遼祐さんは、「英語を話せるようになりたいという思いで、このプログラムに挑戦しました。最初は難しかった英語も、5日間の体験で理解し返答できるようになりました」と感想を語りました。他の参加者からも「英語への恐れがなくなり、人前で発表することへの抵抗が減った」「様々な国籍の人と接して考え方や価値観の違いについて知ることができ、異文化理解が深まった」といった声がありました。

クロージング・セレモニーでは修了証が授与され、生徒たちは達成感とともに新たな目標に向けての意欲を胸に、充実した5日間を終えました。このプログラムを通じ、生徒たちは英語力を向上させただけでなく、多様な価値観に触れ、国際的な視野を広げる一歩を踏み出しました。



災害についてのプレゼンテーション



講師からディスカッションについてのアドバイス



新たな友人もできました!



中学校・高等学校
7/25
JUNIOR & SENIOR
HIGH SCHOOL

2年連続！ 関西教育ICT展に奈良県代表として参加！



大阪南港ATCホールで開催された「第9回関西教育ICT展」に、奈良県から唯一、本校の片木輝さん(高2)がパネリストに選ばれ、セミナーに登壇しました。今年で2年連続の参加となる本校は、ICT教育分野における積極的な取り組みが評価されています。

セミナーでは、「高校生が考える、賢いネット・SNSの活用方法」をテーマに、大阪府や兵庫県の生徒たちとともに、保護者や教育関係者に向けて提言を行いました。片木さんは、本校や奈良

県全体のICT教育の取り組みについて発表し、SNSの活用方法に関するディスカッションにも参加しました。そこで、「高校生と保護者との間でネットやSNS

の利用に関する考え方の違いを知る機会を作れば、家庭内でのトラブルを減らすことができるのではないか」と意見を述べました。

発表を終え、片木さんは「今回のセミナーに参加して、他校のICT教育の取り組みを知ることができ、とても勉強になりました。このセミナーをきっかけに、高校でのICT教育の発展やSNSの利用方法について考える機会に繋がることを願っています」と語っていました。



中学校・高等学校
10/6
JUNIOR & SENIOR
HIGH SCHOOL

高校生ICT Conference 2024 in 奈良 開催 本校生徒が3年ぶりに奈良県代表に！

本学学園前キャンパスにて、高校生ICT Conference奈良大会が開催されました。このカンファレンスは、高校生がスマートフォンやインターネットなど、身近なICT技術について意見を出し合い、社会課題の解決に向けた有効な活用方法を議論します。議論の内容は全国大会(サミット)で再度まとめられ、代表者が内閣府をはじめ、文部科学省などの政府機関に提言を行います。

奈良大会は、本校の西川和宏教諭が運営を担当し、帝塚山大学の共催サポートを受けて実施されました。今年のテーマは「今、高校生が考える生成AIとの付き合い方」。生徒たちは教育現場でも導入が進みつつある生成AIについて活発な議論を行い、社会への

提言をまとめました。

奈良大会では、本校の小山知紗さん(高1)が奈良県代表に選ばれ、本校としては3年ぶり3度目となる全国大会への出場が決定しました。

11月3日に東京で開催された全国大会では、小山さんが奈良県代表として堂々と発表を行い、全国の高校生との議論を深めました。



中学校・高等学校
11/4
JUNIOR & SENIOR
HIGH SCHOOL

田んぼプロジェクト - 稲刈り -



6月に植えた古代米「^{かんじほ}神丹穂」の稲刈りを、中高 数穂教諭が担当する田んぼプロジェクトの一環として行いました。当日は、プロジェクトを支援してくださっている地元農家の樽井一樹さん、瀬川健さんのご協力もいただき、無事に収穫の時を迎えました。生徒たちが大切に育てた神丹穂は、秋の訪れとともに赤く美しい米を実らせました。

この日は先日の雨の影響で田んぼがぬかるんでおり、足元が悪い中での

作業となりましたが、生徒たちは泥だらけになりながらも真剣に稲刈りに励んでいました。また、刈り取った稲は藁で束ね、自然の風と日差しでゆっくりと乾燥させる「稲架掛け」という昔ながらの農業手法で仕上げ、伝統的な稲作の知恵に触れる機会ともなりました。こうした体験を通じて、生徒たちは収穫の喜びや米作りの苦労を実感し、地域の自然と伝統文化を深く学ぶ貴重な時間を過ごしました。



中学校・高等学校
2024.4-
JUNIOR & SENIOR
HIGH SCHOOL

Instagram公式アカウントを開設しました

今年の4月より中学校・高等学校の公式Instagramアカウントを開設し、学校行事の様子やクラブ活動の成果、生徒たちの日常風景など、学校生活をリアルに感じられる写真や動画をお届けしています。ぜひフォローと「いいね!」をよろしくお願ひいたします。

【ユーザーネーム】tezukayama_nara

【URL】https://www.instagram.com/tezukayama_nara

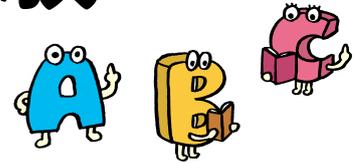


Instagram



TEZUKAYAMA_NARA

英語で学ぶ楽しさを実感！ 国内で留学体験



毎年、3年生から6年生を対象に国内で疑似留学体験ができる「英語国内留学」を、帝塚山大学・東生駒キャンパスで実施しています。このプログラムは、様々な国からの講師とともに英語の学習に留まらず、算数や図工などの他教科を英語を使って学ぶことで、国際的な視野を広げることや、今後の英語学習への動機づけを目的としています。

プログラムは、児童がグループに分かれ、英語での授業やアクティビティに取り組みます。初めて参加する3年生は、慣れない環境に緊張した様子でしたが、個性豊かな講師たちの会話を通して次第にリラックスし、午後の授業では積極的に質問をする様子や会話を楽しむ姿が見られました。

参加した児童は、「英語での会話は難しかったけれど、英語が好きになった。もっと話せるようになりたい」と感想を述べ、今回の体験が英語学習への大きなモチベーションとなったようです。

また、このプログラムは、英語を「学ぶ」だけでなく、英語を「使う」ことで、児童たちのコミュニケーション力や問題解決力を向上させることも期待しています。英語が苦手な児童でも、講師や仲間たちとの関わりを通じて楽しみながら学び、異文化に対する理解も深めることができる点が魅力です。今後の学びの基盤を築く貴重な機会となりました。





日本の財政を自分ごととして考える体験型授業を実施

近畿財務局奈良財務事務所の方をお招きし、6年生を対象に財政に関する授業が行われました。「自分の将来のために日本の未来を考える」をテーマに、公共施設や公共サービスにどのように税金が使われているかについて学びました。授業の後半では、児童たちがグループに分かれ、「財務大臣になって予算を作ろう」というテーマで予算編成のシミュレーションを実施。少子高齢化や教育、社会保障など、現代社会が抱える課題に対して予算案を作成し、各グループが予算編成に至った経緯について発表しました。



授業に参加した児童は、「国のお金の使い方や財政について興味を持てるようになった」と感想を述べ、財政への関心が高まった様子でした。日本の未来について主体的に考えることが求められるこの体験型授業は、児童たちにとって貴重な学びの機会となりました。

これが私たち財務大臣の作った予算です。



野菜栽培委員の育てた野菜が給食に！

自然体験学習・食育の一環として、小学校農園で野菜の栽培を行っています。毎年、4年生から6年生の希望者が季節ごとの野菜を育てています。今年は、4月にトマト、ナス、インゲンなどの苗を植え付けました。酷暑や天候不良の影響もありましたが、野菜栽培委員の児童たちの努力の

おかげで、立派な野菜を無事に収穫することができました。

収穫された野菜の一部は学校給食の材料として使用され、この日は委員が育てたインゲンが全校児童に振る舞われました。委員の児童たちは、自分たちが心を込めて育てた野菜をクラスメイトに食べてもらえ嬉しそうなお様子でした。低学年の児童たちも、高学年の先輩が育てた野菜だと知り、驚きと感謝の気持ちを感じているようでした。

自分たちで育てた野菜を食べることは、自然体験学習や食育として大きな意味を持つものです。今後もこの取り組みが児童たちの成長に役立つことを期待しています。

野菜栽培委員が育てたインゲンが入った給食



美味しゅう！



『TEZ'fes 2024』盛大に開催！

子どもたちが心待ちにしていた『TEZ'fes 2024』が今年も幼稚園と小学校の合同で開催されました。当日は、あいにくの雨で屋外イベントは中止となりましたが、保護者で構成される「育友会」の皆様のお力添えもあり、舞台となった各教室と体育館には、多くの子どもたちや保護者が集まり、笑顔と笑い声があふれる一日となりました。

体育館には大型遊具が設置され、子どもたちは元気いっぱい遊び回り、歓声が響きました。

また、校内では輪投げやフリスロー、スーパーボールすくいなどの遊びコーナーが開催され、楽しそうに挑戦していました。

昨年度に引き続き、4年生がそれぞれの担当を決め、各ブースで受付やゲームをお手伝い。5年生は、小学校農園で育てた野菜やポップコーン等を販売して、会場を盛り上げてくれました。

今年も帝塚山大学教育学部の学生がブースの運営を手伝い、子どもたちとの交流を楽しみました。今年もTEZ'fesは、大盛況のうちに幕を閉じました。



夏の思い出 「てづキッズまつり」 開催!



今年の夏も、育友会の企画による「てづキッズまつり」が開催され、園内は手作りの風鈴や提灯に彩られ、まるで本格的なお祭り会場に様変わりしました。ヨーヨー釣りや輪投げ、サッカー、ストライクなどのゲームブースに、園児たちは目を輝かせ、友達や先生と一緒に夢中で遊んでいました。にぎやかな笑い声が響き、思い出に残るひとときになりました。

夏ならではの「流しそうめん」では、「ぎきたぎた」と流れるそうめんを嬉しそうにすくい、次々にお代わりする子も。スイカ割りでは年長組園児が目隠しをして、「もうちよと右」「がんばれ」と友達への応援を頼りに挑戦し、最後にスイカが割れると大歓声が上がりました。「次はどこ行く?」と友達と一緒に大はしゃぎの園児たちの姿があふれていました。また、帝塚山大学教育学部の学生による児童福祉ボランティアサークル「どれみ♪」による人形劇やダンスも行われ、園児たちの笑い声が絶えませんでした。

さらに、年長組の手作りお神輿を担いで行う年長・年中組による「おみこしりレー」では、年少組の応援団が「わっしょいーわっしょいー」と声援を送り、りレーに参加する園児たちも一生懸命にゴールを目指して奮闘していました。締めくくりに花火も行われました。噴き出す鮮やかな光に「きれい」と歓声が上がリ、みんなで素敵な夏の夜を楽しむことができました。



幼稚園
7/19-20
KINDERGARTEN

お泊まり保育 ~楽しい体験と成長の2日間~

社会の一員として自立心を培い、マナーを学ぶことを目的に、年長組が心待ちにしていたお泊まり保育が行われました。初日の午前中は、奈良の伝統工芸「赤膚焼」の窯元を訪れ、湯飲み作りに挑戦。園児たちは、工房でお皿や花瓶、茶碗が作られる様子に目を輝かせ、「すごい!」「早くやりたい!」と期待を膨らませました。工房見学後、湯飲み作りでは、粘土をこねて熱心に作品づくりに集中していました。「ハートにしたよ」「星形に作った!」など、個性あふれる湯飲みが完成しました。

午後は京都府の宿泊施設に移動し、川遊びやキャンプファイヤーを楽しみました。川遊びでは自分たちで作った船を川に浮か

べたり、サワガニを探したりと、自然の中でのびのびと過ごしました。夜のキャンプファイヤーでは、舞い上がる火の粉を見つめながら、歌やゲームで盛り上がり、友達と過ごすかけがえのないひとときに笑顔が絶えませんでした。

このお泊まり保育で、友達との絆を深め、たくましく成長する姿が見られました。家族と離れ、友達たちや先生と過ごす、忘れられない思い出となったことでしょう。



幼稚園
10/25
KINDERGARTEN

秋空の下で稲刈り体験! 園児たちが自然とふれあう一日

秋晴れのもと、今回も小林弘明前育友会会長の田んぼをお借りし、園児たちと一緒に稲刈りを行いました。稲刈りの作業は初めての園児たちも多く、最初は戸惑いながらも、次第にコツを掴み、夢中になって取り組んでいました。自分たちの手で収穫した稲に触れ、秋の豊かさを感じる貴重なひとときとなりました。

さらに、田んぼでは楽しいイベントが盛りだくさん。園児たちは秋の味覚「焼き芋」を

味わい、大喜び。また、広々とした

田んぼを使ったりレーでは、元気いっぱい駆け抜け、思いきり体を動かしました。そして、雨天のため、運動会でできなかった綱引きも特別に田んぼで実施。園児同士の真剣勝負の後、最後は保護者の方々も加わり「園児チーム対保護者チーム」の白熱の一戦に突入。結果は、園児たちが見事に勝利し、大きな歓声が上がりました。

園児たちにとって、自然と触れ合いながら仲間と力を合わせ、秋を五感で感じる素晴らしい体験となりました。この日の思い出が、秋の風景とともに心に深く刻まれたことでしょう。



幼稚園
9/18
KINDERGARTEN

肩たたきや歌でふれあい交流 園児たちが介護施設を訪問

年長組園児たちが「スーパー・コート プレミアム 奈良・学園前」を訪問し、楽しい交流のひとときを過ごしました。はじめに、緊張しながらも元気よく挨拶をし、続いて宮沢賢治の「雨二毛負ケズ」の音読を披露。園児たちの一生懸命な姿に、入居者の皆さんも静かに耳を傾けておられました。



その後は、懐かしさを感じさせる歌「にんげんっていいな」や「とんぼのめがね」を元気に歌い、介護施設の皆さんも手拍子をしながら一緒に楽しんでくだ

さいました。さらに「むすんでひらいて」の手遊びを園児たちがリードして行い、みんなで楽しく体を動かし、笑顔の輪が広がりました。

続いて、園児たちは入居者の後ろに立って、肩たたきの触れ合いを行いました。園児の小さな手による優しい肩たたきに、「気持ちがいいね」「ありがとう」と喜びの声があがり、園児たちも満足げな表情でした。そして最後には、「いつまでもお元気で」という気持ちを込めた手作りのおまもりをプレゼント。温かな拍手に包まれてお別れし、笑顔と感謝にあふれる素晴らしい時間となりました。



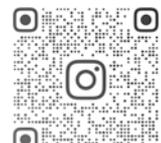
幼稚園
2024.8
KINDERGARTEN

Instagram公式アカウントを開設しました

幼稚園の公式Instagramアカウントを開設しました。このアカウントでは、園の日常風景や行事の様子、さらに学園内の各学校との教育連携事業など、園児たちの笑顔あふれる写真や動画をお届けします。園の魅力を広く発信する場として活用しますので、保護者の皆さまだけでなく、地域の方や園関係者の皆さまも、ぜひフォローをお願いします。

Instagramを通じて、帝塚山幼稚園の雰囲気や教育の取り組みをリアルタイムで感じていただけます。

【ユーザーネーム】tezukayama_youchien 【URL】https://www.instagram.com/tezukayama_youchien/



TEZUKAYAMA_YOUCHIEN



中高・理科部ロボット班 国際大会及び全国大会で大健闘

WRO Open Championship Italy 2024 (国際大会)

9月25日から28日にかけて、理科部ロボット班の高校3年生 仲田有輝さん、松崎一樹さん、林天空郎さんが、イタリア・ブレシアで開催されたWRO Open Championshipに日本代表として出場しました。この国際大会には、47カ国・238チームが参加しました。競技は既定のコース課題をクリアしながら走行する「ロボミッション」、課題解決を発表する「フューチャーインベーター」、自動走行のロボット製作を目指す「フューチャーエンジニア」、対戦型ロボット競技である「ロボスポーツ」の4種類のカテゴリに分かれて行われました。理科部ロボット班は、ロボスポーツ競技に参加し、強豪チームと技術力を競い合い、切磋琢磨し、予選リーグを戦い抜きました。予選リーグで

は苦戦しながらも、6位で決勝トーナメント進出を決めました。決勝トーナメント1回戦では優勝候補のマレーシアチームとの対戦でエキストラマッチまでもつれこむ試合展開となりましたが、惜敗となりました。それでも、生徒たちは国際大会での決勝トーナメント進出という快挙を成し遂げ、大健闘しました。

また、国際大会参加に際し、支援金を募集したところ、合計40,000円のご寄付をいただきました。寄付金は大会参加の旅費交通費の一部として有効に活用させていただきました。皆さまのご支援に心より感謝申し上げます。



左より仲田さん、松崎さん、林さん



優勝候補のマレーシアチームとの対戦

WRO 2024 Japan 決勝大会 in 富山 (全国大会)

8月24日・25日、富山県で開催されたWRO 2024 Japan 決勝大会 エキスパート競技及び12月8日にオンラインで開催されたミドル競技に理科部ロボット班の生徒たちが出場しました。全国32か所まで1,000チーム以上が参加した公認予選大会から選抜された140チームが決勝大会に参加し、全国から集まった強豪チームと技術力を競い合いました。白熱した対戦の中で多くの学びと経験を得ることができました。

【出場者】

■中学校

ミドル競技: 板倉 大和さん(中1) 横内 瑛太さん(中1)
エキスパート競技: 上野 翔大さん(中2) 江角 京将さん(中2)
森本 馨太さん(中2)

■高校

エキスパート競技: 米田 一帆さん(高3) 別宮 悠真さん(高2)
森本 啓太さん(高2)

第41回中学校高等学校 ギター・マンドリン音楽祭 金賞・大賞受賞!

6月16日に「大東市立総合文化センターサティホール」で開催された「第41回中学校高等学校ギター・マンドリン音楽祭」で、帝塚山学園ギターマンドリンクラブがマンドリン部門の金賞及び大賞を受賞しました。

舞台では、O.カルリーニ作曲、石村隆行編曲の「叙景的幻想曲『イル・トルネオ』」全楽章(Ⅰ.騎士たちの入場～お祭り騒ぎ～喝采、Ⅱ.鳴り響くトランペット～馬上槍試合の開始、Ⅲ.貴婦人たちへの敬礼、Ⅳ.短いファンファーレ～剣を握り締める～競技、Ⅴ.敗者の祈り、Ⅵ.許し～凱旋行進曲)を披露しました。演奏後には2名の先生方から講評をいただきました。



SAGA2024国スポ 競泳競技に奈良県 代表として出場

9月14日から16日に佐賀県で開催された「第78回国民スポーツ大会水泳競技大会」に吉村遙真さん(高1)が奈良県代表選手として、出場しました。今年から「国民体育大会(国体)」は「国民スポーツ大会(国スポ)」へと名称が変更され、この記念すべき第1回大会に吉村さんは、メドレーリレー(第2泳者:平泳ぎ)とフリーリレーの2種目に出場し、各都道府県の強豪選手たちが競う中、堂々たる泳ぎを披露し、奈良県代表としてチームに貢献しました。



弦楽部 日本学校合奏コンクール 全国大会 アンサンブル部門 最優秀賞・文部科学大臣賞 (第1位) を受賞!

11月10日に千葉市の「青葉の森公園芸術文化ホール」で行われた、第13回日本学校合奏コンクール 2024 全国大会ソロ&アンサンブルコンテストアンサンブル部門に弦楽部が出場し、全国第1位に輝きました。20名によるアンサンブルで、B.バルトーク作曲の「弦楽のためのディヴェルティメント」より第3楽章を披露。緻密な演奏で会場を魅了し、もっとも優れた演奏をした団体に送られる、最優秀賞・文部科学大臣賞を受賞しました。

【出場者】

- (高2) 上田 遥香さん 岡本 野乃香さん
 児玉 遼太郎さん 延山 愛佳さん 松尾 和奏さん
 (高1) 井澤 陽菜子さん 井本 京香さん 井本 伶奈さん
 上村 麻朝さん 岡山 実樹さん 加瀬 瑞生さん
 久保 葵さん 塩田 あまねさん 内藤 葵さん
 中井 美沙さん 成宮 璃子さん
 (中3) 市森 芙希さん 小橋 茉依さん
 (中2) 西村 美心さん 渡辺 いとあさん



中高・数学研究部 「パソコン甲子園2024」プログラミング部門本選に2年連続出場

数学研究部の谷崎啓太さん(高2)と河内拓人さん(高2)のチームが、「パソコン甲子園2024」プログラミング部門で9月16日に開催された予選を突破し、本選(全国大会)への出場を果たしました。



左より河内さん、谷崎さん

「パソコン甲子園」プログラミング部門は、全国の高校生や高等専門学校生を対象に、制限時間内に課題された課題を満たすプログラムを実装し、その「正確性」「速さ」「効率性」などを競う競技プログラミングの大会です。

本選は11月2日・3日に会津大学で開催され、予選を勝ち抜いた31チームが参加しました。「本選では、全国トップクラスのチームとの対戦に挑み、課題の難易度の高さや独特の緊張感を実感しました。今回は入賞できませんでしたが、来年は優勝を目指して頑張ります!」と語る二人。来年のさらなる活躍が期待されます。

中学校・高校推奨資格 実用英語検定試験 【2024年度第1回 実用英語検定試験合格者】

- 中学校 準1級合格: 明神 一樹さん 岩田 愛佳さん
 2級合格: 出宮 胡桃実さん 岸本 愛実さん
 田中 千尋さん 田中 虹光さん
- 高校 準1級合格: 辻本 穂波さん

NHK杯全国高校放送コンテスト 10年連続 準決勝進出!

全国の高校生たちが、アナウンスや番組制作などの技術を競う「第71回 NHK杯全国高校放送コンテスト」に放送部が出場しました。コンテストは7月22日から25日の間、「国立オリンピック記念青少年総合センター」で開催され、全国の強豪が集まる中、アナウンス部門・ラジオドキュメント部門・テレビドキュメント部門・創作テレビドラマ部門に出場し、10年連続で全国大会 準決勝進出を決めました。(今年はラジオドキュメント部門で進出)

大会に参加して、「他校の生徒と積極的に関わり、互いを高め合うことができました。これからも、全国大会出場を目標に頑張っていきます!」と皆さんで感想を語ってくれました。



【出場者】

- 〈アナウンス部門〉池谷 朋華さん 高井 愛子さん 佐藤 心花さん
 〈ラジオドキュメント部門〉福村 衣玖子さん 城 朋穂さん
 〈テレビドキュメント部門〉朱 聖礼さん 塩井 祐輔さん 渡辺 百芭さん
 〈創作テレビドラマ部門〉北川 柳季さん 藤塚 実梨さん

令和6(2024)年度 大学生訪韓団に選出

外務省が所管する公益財団法人日韓文化交流基金が主催する大学生訪韓団の一員として、有川茉那さん(大学文学部3年)が選出され、9月20日から28日(8泊9日)の間、韓国を訪問しました。このプログラムには約270名の応募があり、厳しい選考を経て28名が参加。テーマは「日韓国交正常化60周年に向けて～未来を夢見る相互交流～」で、各種視察、ソウル大学訪問等を通じた同世代との交流、「日韓交流おまつり 2024 in Seoul」への参加等を通じて、韓国の社会や文化、歴史に対する理解を深めました。



修了証明書を手にする有川さん

有川さんにとって特に印象的だったのは、「日韓交流おまつり 2024 in Seoul」で和紙折染めのワークショップを開催し、日本文化を紹介したことでした。「多くの来場者を楽しんでいたのがとても嬉しかった」と振り返ります。

また、現地での交流を通じ、「メディア等で日韓関係の悪化について目にすることもありましたが、偏見を持たずに他国と向き合う大切さを実感しました。今後も両国の相互理解を深める活動に積極的に取り組んでいきたいです」と語っていました。



韓国外交部を表敬訪問

※このほかにも多くの学生・生徒・児童が活躍しています。各学校ホームページで随時情報を発信していますので、ぜひご覧ください。

小学校の調理室で、年長児とその保護者を対象とした「親子でクッキングの会」が開催されました。小学校家庭科 中嶋和美先生の指導の下、「野菜を使ったフォカッチャ」と「噴水フルーツポンチ」を親子で一緒に作る楽しいイベントとなりました。

フォカッチャ作りでは、参加者がコーンやミニトマト、ウィンナーを使って生地に飾り付けをし、オリジナルのデザインを楽しみました。さらに、噴水フルーツポンチでは、ラムネとペットボトルに入った炭酸飲料を使用し、ラムネを入れることで炭酸が一気に発生して、ペットボトルから炭酸飲料が噴き出す仕掛けに、園児たちは大喜び。親子で協力しながら野菜を切ったり、生地をこねたりと、笑顔が絶えない和やかな雰囲気の中で進行しました。

参加した保護者の皆さまからは、「レシピをもらえたので、家でもまた挑戦したいです」「子どもが楽しんで料理を学んでくれて嬉しい」との感想が聞けました。活動を通じて、親子の絆を深めるだけでなく、園児たちが楽しみながら「食」への興味を育む大切な機会となりました。



6/29
小学校
×
幼稚園



ひろがる 連携

その1

「親子でクッキングの会」
絆が深まる笑顔いっぱいの料理教室



7/2
大学
×
幼稚園

作って食べよう、きらきらゼリー
大学生と園児の食育活動





毎年恒例の「ロボット教室」が、学園前キャンパス18号館で今年も開催されました。今回は特別に「親子での学び合い」をテーマにした「親子ロボット教室」として実施されました。この教室の企画・運営は、将来の小学校教員を目指す大学教育学部の学生が担当し、参加した小学生への指導に携わりました。また、中高・理科部ロボット班の生徒がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、親子の学びをサポートしました。

教室では、親子で協力しながらセンサーを使った「順次処理」「反復処理」「分岐処理」といったプログラミングの基本技術を学び、自分たちで組み立てたロボットを自在に動かすことを目標に挑戦しました。教室の最後には、昨年のロボット大会(WRO)のコースを使用し、親子で試行錯誤を重ねながら、ロボット走行とコース走破に挑戦しました。親子の絆が一層深まり、充実感と達成感に満ちた学びの場となりました。



つながる 教育



6/29
大学
×
中高

地域の小学生対象に
「親子ロボット教室」
開催!



大学現代生活学部食物栄養学科の佐伯孝子ゼミの学生たちが幼稚園を訪れ、「作って食べよう!きらきら七夕ゼリー」をテーマに、園児たちと一緒にゼリーの盛り付けや食育活動を行いました。

まず、学生たちは紙芝居を使って、ゼリーに使われている寒天について説明。寒天が海藻から作られていることや、ゼリーには、その寒天が使われていることについて話すと、園児たちは興味津々に耳を傾けていました。説明の後は、寒天ゼリーを一緒に型抜き。星やハートの形にくり抜いたゼリーとフルーツを盛り付け、シロップをかけると「きらきら七夕ゼリー」が完成しました。

園児たちは出来上がったゼリーを美味しく口にっぱいに頬張り、満面の笑顔を見せていました。今回の活動は、食材について学びながら楽しく食育を進める貴重な機会となりました。





大学教育学部服部正志准教授の指導の下、大学教育学部学生と幼稚園年中組による「交流」と「展覧会」の要素が合わさったプロジェクトが実施されました。

プロジェクトは2回に分けて実施され、7月10日から始まり、10月23日に第2回目の交流活動でフィナーレを迎えました。

この「18号館まるごとこども美術館プロジェクト」は、園児たちにとって自分の表現を認められる喜びを体験できる機会であると同時に、教員を目指す学生たちにとっても貴重な教育体験となりました。



18号館まるごとこども美術館

額で絵を運んでてんらんかい

7/10・10/23
大学
×
幼稚園

ひろがる連携



実施日:
7月10日

実施日:
10月23日



第1回目、教育学部の学生たちが幼稚園を訪問し、園児たちと一緒に自分のお気に入りの絵を額縁に入れる作業を行いました。その後、園児と学生が協力して、幼稚園から同じ学園前キャンパスにある18号館に作品を運び、館内に作品を展示しました。

展示スペースである18号館2階「金色笑顔」の壁面には、年中組の園児たちの作品が飾られ、館内は「美術館」に生まれ変わりました。展示後は、園児たちが学生と造形活動を楽しむなど、交流を通じて新たな絆が生まれました。

この日は、7月に展示された園児たちの作品が18号館内の様々な場所に移動され、園児たちと学生は作品と一緒に探す「鑑賞ツアー」を楽しみました。

作品を発見した園児たちは、その場で発表会を行い、友達や学生からたくさんの感想や意見をもらいました。発表した園児は自分の作品が褒められ、誇らしげな笑顔を見せていました。

活動の最後には、学生から園児一人ひとりに、感謝の気持ちを込めた手作りメダルが贈られました。さらに、「金色笑顔」の金色の折り紙をみんなで剥がしたり、丸めてボールのように転がして遊び、最後まで笑顔があふれる時間となりました。みんなで遊んだ後、もう一度学生のお姉さん・お兄さんと手をつないで幼稚園まで戻り、無事プロジェクトは終了しました。



情報モラル教室開催! 安全なICT活用方法を学ぶ



10/16
大学
×
小学校

小学校で、3年生から6年生を対象にした「情報モラル教室」が開催されました。SNSやインターネットが日常的になりつつある現代において、大学法学部の笹邊将甫法学科長に「情報機器を正しく利用するには??」をテーマにSNSの利便性や楽しさ、情報社会に潜むリスクについてわかりやすく解説いただきました。

安易なクリックや不用意な個人情報の公開が招く危険性について、実例を交えて具体的に指導いただき、児童たちはインターネットの健全な利用について真剣に考えました。また、長時間の使用がネット依存や姿勢への影響を及ぼすことにも触れられ、健康リスクについても意識が深まる機会となりました。

さらに、SNSでのトラブルやインターネット上のなりすまし等についても理解を深め、ICT機器を安心して活用するためのルールとマナーの大切さを学びました。今回の講習会を通じて、児童たちはICT利用に必要な知識と意識を改めて確認し、今後も安全にインターネット等を活用するための心構えを得ることができました。



つながる 教育

その2



ミニコンサート 開催

8/23
中高
×
幼稚園

幼稚園リズム室にて、中高弦楽部による園児向けのミニコンサートが開催されました。

弦楽部の生徒たちは、園児たちが親しみやすい曲目を用意し、この日のために準備を重ねました。また、楽器紹介のコーナーも設けるなど、園児たちに音楽や楽器に親しんでもらえるよう工夫を凝らしたプログラムを組みました。

ミニコンサートにはたくさんの園児や保護者が参加し、普段接する機会のないヴァイオリンやチェロなどの弦楽器の演奏をすぐ目の前で聴き、音楽に合わせて手拍子を打ったり、楽しそうに身体を揺らしていました。

同じ学園に通う、異なる年齢層の子どもたちが、音楽を通じて交流を深めることができた、素晴らしい機会となりました。

2024
9/8

令和6年度 総会・懇親会を開催



ホテルモントレ グラスミア大阪にて、同窓会総会・懇親会を盛大に開催しました。総会では、卒業生から積極的に質問や要望が寄せられ、意義深い討議が行われました。提案された議案はすべて承認され、卒業生の皆様の意見がしっかりと反映されたものとなりました。

総会後の懇親会には、3期生から77期生までの幅広い世代、約130名が参加。玉井政弘会長の挨拶に続き、富岡将人理事長・学園長から温かいご祝辞をいただきました。特に今回は、7期卒寿(90歳)、20期喜寿(77歳)、そして3期で94歳を迎えられた方への記念品授与も行われ、拍手に包まれました。

乾杯の発声は小林健校長が務め、会場では美味しい料理に舌鼓を打ちながら、旧友との懐かしい話に花が咲き

ました。さらに卒業生であるプロミュージシャン、山口マリさん(サクソ演奏)と上條みずほさん(ピアノ演奏)による素晴らしい演奏で、会場の雰囲気が一層華やかに。



懇親会の目玉企画「ビンゴ大会」も、軽快な進行で大いに盛り上がり、歓声が響きました。最後は全員で校歌と祝歌「茜雲」を斉唱し、松岡正格常務理事が「帝塚山の校章であるまつぼっくりにちなんだエピソードを披露し、心温まるお話で会は締めくくられました。



玉井政弘会長



富岡将人理事長・学園長



松岡正格常務理事

2024
9/28

ゴルフコンペ開催!



9月28日に帝塚山学園同窓会ゴルフコンペを「美加ノ原カンツリークラブ」で開催しました。19期生から69期生の46名が参加し大変盛り上がりました。

9月末とはいえ、暑さが残る気候の中、4コースに分かれてのスタートでした。結果は、42期の竹原さんが見事優勝されました。

参加者の経験年数は様々ですが、ダブルペリアによ

るハンディキャップが設けられますので、ひよっとしたら初心者の方でも優勝するかも…今年参加されなかった方、初心者で不安な方、若い方、ご年配の方、どなたでもご参加いただけますので、どうぞ来年こそご参加くださいませ。

どんな方でも帝塚山というキーワードですぐ話に花が咲きますので皆さまのご参加をお待ちしております。

2024
10/26

文化行事 世界遺産 京都・下鴨神社特別拝観

10月26日、同窓会文化行事として初の試みとなるバスツアーを実施しました。

京都・南禅寺での散策を済ませ、「絶景かな絶景かな」で有名な三門と水路閣を眺め昼食は湯豆腐。

下鴨神社では十二単の着付けが終わると絵巻の世界の優雅な王朝舞の始まりです。美しい所作の優美な舞にため息しか出ませんでした。特別拝観では続いて神様のお食事を用意する大炊殿、「開けずの間」と呼ばれる玉座の見学と見どころ満載でした。

短い時間でしたが、京都をしっかりと感じた1日でした。



十二単の着付け

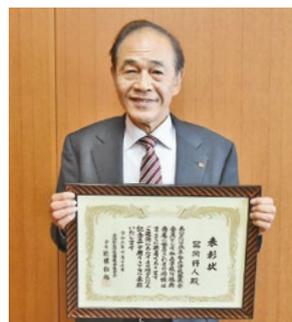


大炊殿の説明がありました

富岡将人理事長・学園長 全国私立学校審議会連合会より表彰

10月17日、全国私立学校審議会連合会より、長年にわたり私学教育の振興と健全な発展に貢献されたとして、富岡将人理事長・学園長の委員退任にあたり、表彰状と記念品が授与されました。

全国私立学校審議会連合会は、教育基本法・学校教育法及び私立学校法に基づき、各都道府県の私立学校審議会の運営を円滑にするとともに、私学教育の振興を図ることを目的として設立された組織です。富岡理事長・学園長は、私学の発展に向けて長年にわたり尽力され、その多大な功績をたたえられて、表彰されました。



学園前アートフェスタ2024 開催

11月9日から17日までの9日間、近鉄学園前駅周辺で毎年開催されている「学園前アートフェスタ」が、今年も盛大に行われました。本学園も、地域活性化と芸術文化の振興を目的として、このプロジェクトに協力しました。

今年のテーマは「サイクル-自然になること-」です。開幕初日に行われたオープニングセレモニーでは、実行委員長の挨拶に続き、仲川げん奈良市長による祝辞が述べられ、「学園前アートフェスタ」の幕開けを祝いました。セレモニーの最後には、帝塚山中高弦楽部による記念演奏が披露され、美しい音色が会場を華やかに彩りました。

また、学園前キャンパス18号館も会場の一つとなり、1階では選考会で選任された作家の作品が展示され、2階には地域の子ども会の児童たちが制作した作品が並び、多くの来場者が訪れました。

【構成団体】主催：学園前街プロジェクト実行委員会 運営：学園前アートフェスタ開催委員会
特別協賛：学校法人帝塚山学園・株式会社浅沼組 後援：奈良県・奈良商工会議所



弦楽部による記念演奏



学園前キャンパス18号館に展示された作品を鑑賞される来場者

高校コーラスコンクールへのご寄付 誠にありがとうございました

6月20日、尼崎市のあましんアルカイックホールで開催された高校コーラスコンクールの運営に際し、支援金を募集したところ、心のこもったご寄付をいただきました。寄付金は、コンクール審査員への謝礼として有効に活用させていただきました。

本校の高校コーラスコンクールは60年以上続く伝統行事ですが、コロナ禍の影響で開催が見送られていました。今年は5年ぶりに開催することができ、生徒たちは限られた練習時間の中で試行錯誤しながらも、素晴らしい発表を行いました。コンクールを通じて、参加した生徒たちが貴重な経験を積み、大きく成長する機会となりました。

皆さまのご支援に心より感謝申し上げます。今後とも、本校の活動へのご理解とご協力をお願い申し上げます。

寄付件数・合計金額：9件 60,000円
寄付使用用途：審査員謝礼



中高吹奏楽部へのご寄付について ～途中経過のご報告～

現在、吹奏楽部では活動を支援するための寄付を募集しています。お寄せいただいているご寄付について、途中経過をご報告いたします。

寄付件数・合計金額：13件 435,000円
(令和6年11月30日時点)
寄付使用用途：ユーフォoniumを購入(予定)



皆さまの温かいご支援に心より感謝申し上げますとともに、引き続き吹奏楽部へのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

各学校・園への寄付がインターネットでも行えるようになりました

平素より本学園の教育研究活動に格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

各学校・園へのご寄付は、これまで、所定の寄付申込書を使用し、金融機関窓口で払い込む方法により行っていただいていたのですが、この度、インターネットによる寄付も行えるようになりました。

本学園の建学の精神「社会に有為な人材を育成する」の実現に向けた教育研究活動にご理解をいただきまして、ご賛同、ご支援いただける方々からのご寄付を賜りたく、ご協力をお願い申し上げます。

※引き続き、寄付申込書を使用しての申し込みも可能です。

インターネットからの寄付はこちらから→ <https://tezukayamagakuen.jp/donation/>

寄付の項目

- ①【帝塚山大学】学修環境の充実
- ②【帝塚山高等学校】学習環境の充実
- ③【帝塚山中学校】学習環境の充実
- ④【帝塚山中学校・高等学校】吹奏楽部 楽器・楽譜等の購入、音楽活動の充実のための寄付
- ⑤【帝塚山中学校・高等学校】ロボット部 世界大会参加のための寄付
- ⑥【帝塚山小学校】学習環境の充実
- ⑦【帝塚山幼稚園】学習環境の充実
(令和6年11月30日時点)





「*T-time*」を
スマートフォンで！
スマートフォンなどでも、
本誌をお楽しみください。